

## 5月24日(水)「有野台音頭」①

運動会で踊る有野台音頭を、婦人会の皆さんに指導していただいて全校生で練習しました。「覚えてない。」とか言いながらも6年生は慣れたもので音楽が始まると、指導の声に合わせて自然に手足が動きまわります。その様子を見て初めての1年生も他の学年も踊ります。あいにくの空模様で、体育館の中での練習でしたが全校生で大きな輪になって踊る様子は、壮観でした。「みんなで一つのことをする」楽しさを感じることができたのではないのでしょうか。

全学年で何か一つのことをする時に、高学年の子供の中には、照れくさがったり、照れ隠しにへらへらしで見せたり拗ねて見せたりする子供がいたりしますが有野台小学校ではほとんど見かけません、素直に楽しんで一生懸命取り組んだりしています。

## 「有野台音頭」②

自分の住んでいる町の音頭がある、夏にはお祭りがあり老若男女みんなで踊ることができる、地域にいろいろな団体があり、連携して子供たちを見守り様々な支援をしてくれる。小学校の卒業生が今度は保護者の立場で学校にかかわってくれる、自分の子供が卒業して何年もたつのに学校や子供たちのことを気にかけてくれる、そんな有野台の街の暖かさを、今はわからなくとも子供たちにも引き継いでいってほしいと思います。10年後20年後……有野台から神戸からひょっとして日本から巣立っていった彼らが、小学生時代を思い出した時に。

### 朝会の話より「がんばる」とは

子供自身も教師も保護者も「がんばる」とか「がんばれ」というのですが、「がんばる」とは具体的にどうすることなのでしょうか。

私は「頑張る」とは「少しだけ無理をすること。」と話しました。

「(いややけど)、せなあかん。」→努力の必要性を認める

→少しだけ無理をする

—「(必ずできるようになるから)努力を続けよう。」

「(いややけど)、我慢しよう。」→努力が必要かどうか

わかっていない →無理と感じる。

—「(できてもできなくても)辛抱しているうちに終わる。」

この違いは、大きいと思います。

大人の世界でもモチベーション(動機づけ)が、重要な問題になっています。

「みんなやってる〜」、「当たり前〜」ではなく、頑張る自分、(周囲とくらべて)すぐに結果が出せない自分、を否定せず冷静に見つめ、新たな方法を考えてまた取り組む「がんばる力」をつけさせていきたいと考えています。